

授業科目 救急法実習Ⅰ

【担当教員名】 大滝 弘		対象学年	2	対象学科	スポ
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：GI0】 スポーツ指導者として現場で必要な救急法の実践能力を習得することはもとより、救急法を学ぶことにより指導者として高い安全知識と事故防止に対する能力を身につける。					
【学習目標・行動目標：SB0】 救急法の理論を正しく理解し、より合理的な実践能力と判断力を養う。 1. 傷病者に対する適切な観察力と判断力を身につける。 2. 傷病者（意識障害、呼吸停止、心停止、大出血、服毒、熱傷）に対しての正しい応急手当ができる。 3. 救急処置（心肺蘇生法、AED、RICE、緊急時の対応）を理解し実践できる。 4. 事故、災害に対する安全知識を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	救急法の目的とその範囲について				動作手順テスト（実技） AED実技テスト 期末テスト（理論）
2	救助者の遵守事項と実施上の注意点				
3	救急処置の基本とショックについて				
4	救急処置（心肺蘇生法（1）理解と手順）				
5	救急処置（心肺蘇生法（2）範囲と重要性）				
6	救急処置（心肺蘇生法（3）気道確保の方法）				
7	救急処置（心肺蘇生法（4）人工呼吸法の生理と実際）				
8	救急処置（心肺蘇生法（5）心臓マッサージの生理と実際）				
9	救急処置（心肺蘇生法（6）実習 気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ）				
10	救急処置（心肺蘇生法（7）実習）				
11	救急処置（心肺蘇生法（8）AEDの使用に関する知識と実際）				
12	救急処置（心肺蘇生法（9）AEDを使用した一連の実習）				
13	救急処置（心肺蘇生法に伴う副損傷と気道内異物の除去）				
14	救急処置（心肺蘇生法が必要となる特殊な状況、子供に対する心肺蘇生法）				
15	救急処置（手当ての基本と心肺蘇生法についての理解）				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		救急法講習教本	日本赤十字社	日赤会館	2001・1,000円
		公認アスレティックトレーナー 専門テキスト第8巻 救急処置	日本赤十字社	日本体育協会	2007・3,100円
参考書		スポーツ現場における 救急処置のポイント	浅井宏祐	文光堂	1998・7,350円
その他の資料		目で見える救急処置法	東京消防庁	東京法令	2004・3,990円
【評価方法】 出席 実技テスト 期末試験			【履修上の留意点】		